

平成30年度学校自己評価システムシート (県立新座柳瀬高等学校)

目指す学校像	生徒一人一人の学力を向上させ、社会に必要とされる「人財」を育成する学校
--------	-------------------------------------

重点目標	1 基礎学力の確かな定着と上級学校に進学できる学力をつける。 2 規律ある態度と自ら考え行動することのできる心豊かな生徒を育成する。 3 キャリア教育を充実させ、それぞれの希望に基づいた進路実現をさせる。 4 教育活動の公開、保護者・地域との連携をとおして、開かれた学校づくりを推進する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)	
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	入学当初の生徒の学力には大きな幅があり、多岐に渡る進路実現に対応するべく、学力差に応じた指導を研究し、学力を伸ばすための授業工夫改善が求められる。 家庭学習の習慣化及び学習時間の増加は依然として重大な課題であり、改善に向けて取り組みを検討する。	生徒の学力差に対応する授業展開を研究し、基礎学力の確かな定着と学力を向上させる。	①少人数、習熟度別クラスの授業展開、単位制を生かした選択授業において、基礎学力及び学習意欲を高める取組。 ②授業改善研修等を通して、授業力向上への取組。 ③各年次の日頃の補習授業の実施状況。各教科で補習の設定や課題を課すことでの家庭学習の習慣化。	①少人数、習熟度別、その他選択授業の成果。(数学I習熟度別授業、コミュニケーション英語I少人数授業等) ・基礎力診断テスト、資格・検定試験での成果。(昨年度各種検定200名以上合格) ②未来を拓く学び事業への参加。(昨年度4名) ・オープン授業週間等の授業改善への取組。(昨年度研究発表8名、校内研修会2回、年次研修等) ③勉強会や補習の実施状況及び家庭学習時間の増加。(昨年度0.7ptsアップ)	①数学I少人数習熟度授業は発展クラスの学力向上と基礎クラスの基礎力の底上げとコミュニケーション英語I少人数クラスは言語活動がより活発になり、基礎力が定着・ITサポート試験7名(他検定400名以上合格) ②「学び」プロジェクトへ教員4名参加、年次・臨任研修研究発表8名 ・オープン授業週間で教科を超えた授業改善実施(6月11日)・県高音研研究発表(2月)「こども文化」で幼稚園実習体験(3年次23名) ③考査前勉強会(各5日間、各年次)家庭学習(毎日)の割合増加(昨年度比1.6 Pts アップ)・基礎学力アップの取組(各年次22回)	A
2	丁寧かつ継続的な生徒指導により落ち着いた生活環境が保たれている。高校生としての行動や言動に責任を持つことや基本的な生活習慣の定着を目指した指導は継続していく。 生徒個々の抱える家庭状況や課題が多様化しており、生徒の状況把握と実態に応じた指導・支援を行っていく。	規律ある生活態度を育成し、高校生活を主体的に取組むために指導をする。また、個々の生徒の把握し、支援する。	①基本的な生活習慣の確立と整容指導の徹底により規律ある態度の育成。 ②「在り方生き方教育」「人権教育」を効果的な実施と心豊かな生徒の育成。 ③生徒面談や校内支援委員会等の活用により個々の生徒の的確な把握と実態に合致した指導、支援。	①基本的な生活習慣の確立と整容指導の徹底により、指導対象者の減少。(年次集会の回数、生徒指導主任講話等) ②適切な時期の実施と内容を充実。(昨年度12月3月に実施) ③専門機関の面談による生徒の状況把握とその情報を教員間で共有、支援。(昨年度カウンセラー、ソーシャルワーカー等支援61件、特別支援8回) ・特別支援研修会の実施(昨年度5月10日) ・校内支援委員会の活用(昨年度9回実施)	①落ち着いた学習環境をさらに整え、指導対象者が減少(昨年度比3.3pts減少) ②「在り方生き方教育」「グローバル人材育成」講演会実施(12月) 人権教育実施(3月) 薬物乱用防止講演会実施(7月) ③校内支援委員会実施(5回) 職員会議等で全教職員と情報共有 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー派遣依頼46件 ・特別支援コーディネーター派遣依頼4件 ・外部研修会参加(6回) ・車いす生徒支援のため支援助員2名を雇用(通年) ・特別支援研修会実施(年間3回)	A
3	進学希望者が年々増加している他、就職希望者は企業・公務員と混在している。進路意識を向上させるため、様々なガイダンス、実習体験などのキャリア教育を体系的に実践していく。 生徒の進路実現に向けて、1年次から丁寧な面談等を行い、資格取得等の必要な学力を向上させる。	主体的な進路選択とその実現に向けた実力を育成する。 学力向上と進路実現との関連性をさらに強めていく。	①体系的な進路指導計画に基づいた各種行事の充実。 ②面接及び作文指導、模試、資格取得等の指導により個々の生徒の進路実現を支援。 ③学力向上と進路実現を結び付け、総合的な学習の時間及び放課後の進路指導の充実。	①学校評価アンケートの進路指導項目の評価向上。(昨年度A及びB評価93.1%) ②進路実現のための取組内容の工夫と充実。(昨年度、進路ガイダンス4回、PTA模擬面接2回 総学における進路指導10回等) ・インターンシップ実施等(昨年度インターンシップ29名看護4名) ③進路決定率の維持、向上。(週1回看護公務員補習実施) (昨年度進路決定率88.9% 1月現在)	①学校評価アンケート進路指導項目評価A及びB 95.7%(昨年度比2.6 pts アップ) ②進路ガイダンス4回 ・総学における進路指導10回 ・PTA模擬面接2回(7月9日) ・オープンキャンパス(2年次8月) ・職業人講話(1年次9月12業種) ・インターンシップ(32名20社) ・教員対象進路指導研修会(4月5日) ③進路決定率83.5%(昨年度1月88.9%) 大学等一般受験者数増加 ・卒業生を囲む会(2月) ・進路研究週間(2,3年次進路情報、求人票研究) ・基礎力診断テスト(全学年) ・職業適性検査(2,3年次厚労省)	A
4	保護者・地域の学校への理解と協力は進んでいるので継続して取り組む。 保護者アンケートでは、学校へのご意見が増加しており関心が高まっている。さらに要望等を検討し、学校運営改善に取り入れる。 PTA等との連携を深める場を作り、保護者と共に生徒を育てる取組を進める。	開かれた学校づくりを実践する。 外部評価を学校改善により活用する。 保護者との連携をより深める。	①学校行事の広報活動の強化と情報発信の工夫及び地元外部機関との連携。 ②学校評価アンケートの分析により、学校の課題の改善。 ・学校評価懇話会等の充実とその評価をさらに活用。 ③PTA活動のさらなる充実と教員との連携を強化。	①ホームページの充実と迅速な更新を行い、中学生・保護者・地域等への積極的な情報発信。(昨年度アクセス数月平均10700件) ・新座市役所、社協、警察等との連携(昨年度14回) ②学校評価アンケートの保護者回答数30%以上を目標。(昨年度回答率27.6%要望34件) ・学校評議員会、学校評価懇話会年2回実施(6月2月) ③PTA活動の充実、(PTA広報誌年3回発行常任理事会6回理事会6回 PTA行事11回) ・研修旅行の内容を変更と参加者の増加(教職員、保護者の研修、昨年度10名)	①ホームページ内容充実(教務部)：学校行事、公開授業、部活動の取組実績等、更新回数85回 教員対象HP更新研修会実施により更新者増加 ・HPアクセス数月平均10800件 ・新座市ひまわりプロジェクト参加 ②学校評価アンケート保護者回答数 35.8%(昨年度比8.2pts アップ) ・保護者対象自由記述欄回答数 31件(昨年度並) ・学校評議員会、学校評価懇話会年2回実施(6月2月) ③PTA広報誌年3回発行 ・常任理事会年6回 ・PTA研修旅行(PTA参加28名 昨年度比1.8pts 増加) ・朝の声掛けキャンペーン年3回 ・模擬面接指導への協力(7月9日) ・教職員との交流会等 年11回実施(渉外部)	A

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	2名

学校関係者評価	実施日 平成31年2月7日
学校関係者からの意見・要望・評価等	授業では、学習意欲を維持する秘訣を教員同士で共有し、良い学習環境を構築している。また、生徒たちは授業を落ち着いて受けており、学習環境が大いに関わっている。 学習指導要領の改訂に伴い、単位制高校としての役割でもある選択科目の特色化、多様化をさらに検討して頂きたい。
授業見学を通して、生徒と教員の信頼関係が築けていることを実感した。生徒が有意義な学校生活を送るために良い環境を提供して頂いている。	校内支援委員会を中心に生徒の心のケアを含め、学習に集中できる環境を構築して頂いていることは高く評価できる。
進路行事にPTAと連携していることはすばらしい。	インターンシップや職業人講話など実際の職場を見学拜聴して、進路選択を行うことは、生徒の興味関心を引き出し、学習意欲の向上に繋がる。大学等の一般受験者が増加していることに対する授業改善工夫を継続して頂きたい。
ホームページ等での地域へ情報発信は、中学生や近隣住民に本校の普段の取組を理解して頂く重要ツールである。保護者アンケートで生の声が多くなることは、学校への関心が高くなってきたことである。	また、PTA活動を通して、保護者等の学校への関心をさらに高めて頂きたい。